

先進医療〈多焦点眼内レンズを用いた白内障手術〉についてのご説明

先進医療とは、厚生労働省が認めた医療機関のみが実施できる高度な新しい医療技術のことです。当院では2013年10月より先進医療施設として厚生労働省に認定されました。

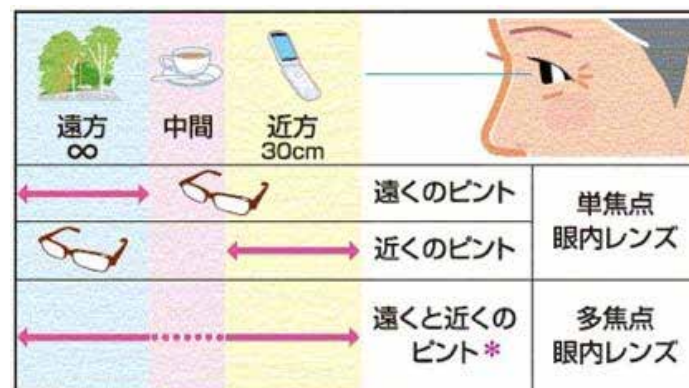
先進医療認定施設での手術施行した場合のみ、

①「多焦点眼内レンズを用いた白内障手術」として手術費・眼内レンズ費は自己負担となりますが、それ以外の手術当日の薬剤費および手術前後の診療費・検査費・薬剤費の費用は保険診療で行えるようになります。

②医療保険・生命保険の医療給付(先進医療特約)を受けることができます。詳細は(ご自身が対象になるのか?)は、保険会社にお問い合わせください。

手術費用 片眼 40万円
両眼 80万円

(当日、受付でお支払下さい)



*多焦点眼内レンズは、近くと遠くの両方にピントを合わせることができ、自由にピントを変えることができる若い頃の見え方とは異なります。

特徴(比較)

単焦点眼内レンズ

多焦点眼内レンズ

長所

解像度、コントラスト感度に優れている。

眼鏡ナシで、遠くも近くもある程度よく見える。

欠点

ピントの合う範囲が狭いため、見る対象の距離によって眼鏡の併用が必要。

単焦点眼内レンズに比べてコントラスト感度や解像度が劣り、ハローやグレアを感じやすい傾向がある。

費用

健康保険適応

健康保険適応外

見え方



近くは見えるが
遠くは見えない!

遠くは見えるが
近くは見えない!

眼鏡が必要



遠くも近くも良く見える!

単焦点眼内レンズ



遠くにピントを合わせたときは、近くはぼやけます(近用眼鏡要)

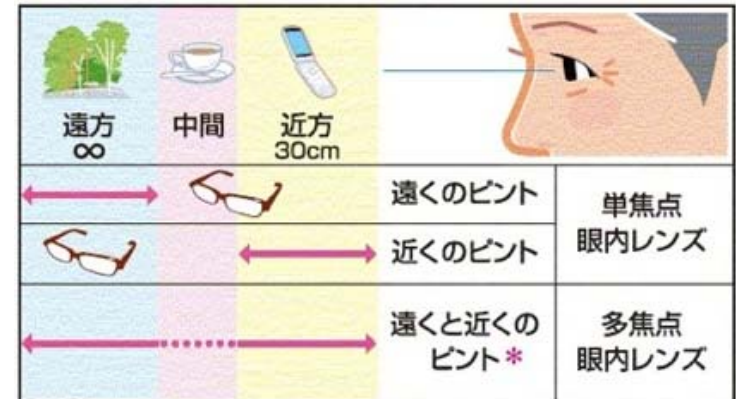
多焦点眼内レンズ



遠くも近くも、比較的良好くみえます



単焦点眼内レンズで遠方にピントを合わせた場合、近用または遠近両用のメガネが100%の方が必要でしたが多焦点眼内レンズでは7.5%でした。多焦点眼内レンズでは90%以上の方が日常生活でメガネを必要としませんでした。



*多焦点眼内レンズは、近くと遠くの両方にピントを合わせることができますが、自由にピントを変えることができる若い頃の見え方とは異なります。

＜多焦点眼内レンズを用いたが白内障手術＞に関する注意点

多焦点眼内レンズは、20歳代の目に戻るわけではありません。

眼鏡使用頻度を少なく、眼鏡依存度を低くするものをご理解ください。

屈折誤差について

レンズは眼軸長(目の長さ)、角膜曲率半径(角膜のカーブ)を基に眼内レンズの度数を決定します。眼軸長も角膜曲率半径も機械でヒトの目を測定するものであり、測定誤差があります。そのため、当院では2機種で測定を行い、出来るだけ測定誤差を小さくするように努めています。それでも、術後に正視ではなく、軽い近視や遠視になる場合があります。その場合は、薄い単焦点のメガネを使用して頂くか、屈折矯正手術(レーシック)を追加する方がよいことがあります。

乱視について

屈折誤差による乱視や術後に生じる乱視があります。より良い視力の獲得のためには乱視矯正などの術後度数補正が必要となりますが、当院では角膜乱視がある方(予想される方)は基本的に対象としておりません。ただし、乱視がある場合でも薄い単焦点(乱視)のメガネを使用して頂くだけで遠方・近方のどちらも見えやすくなります。

多焦点眼内レンズの欠点であり特徴でもあるのですが、コントラスト感度が通常の眼内レンズに比べて落ちます。つまり、通常の眼内レンズよりピントが少しあまくなり、ややにじんで見える感じです。また、複数の焦点が合うため単焦点レンズに比べると、暗所で光が散乱して光の周辺に輪が架かって見える現象(グレア・ハロー現象)を自覚したり、夜間も光がにじんで見えたりしますので夜間に運転する方には不向きです。

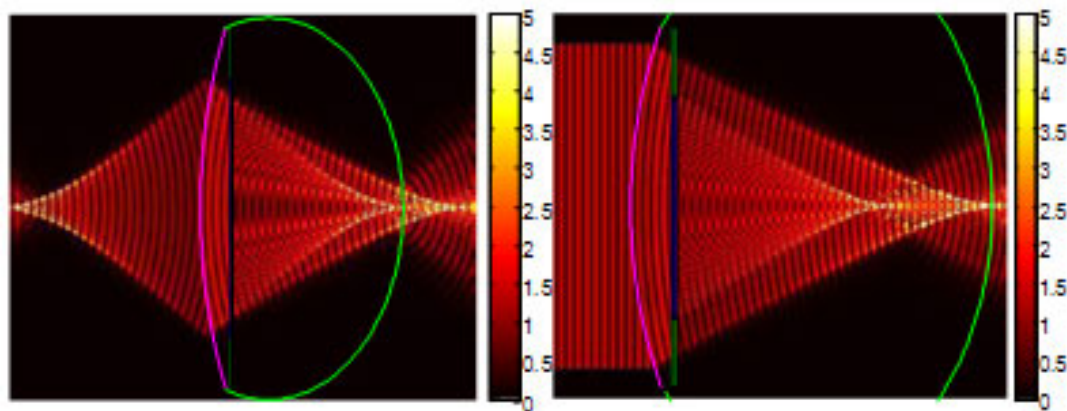
当院では、これらを軽減し、さらに中間距離にも対応した＜ReSTOR+3.0D＞というレンズを採用しています。

多焦点眼内レンズを希望された方でも、眼の状態の診断結果によって、ご希望に添えない場合もあります。ご不明な点は、医師に相談をし、十分にご理解の上で手術をお受け下さい。

ReSTORE+3.0D（アルコン社）について

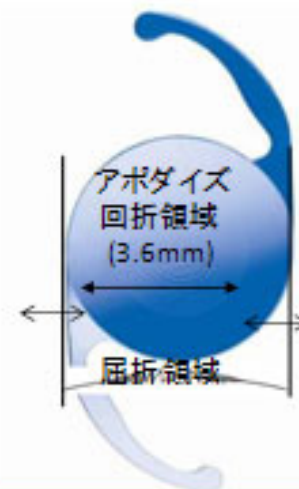
RsSTOR+3.0Dは、回折型の構造を変化させたアポタイズ回折型になります。H22年12月により中間距離が見えるRsSTOR+3.0Dが発売されました。従来のレンズの長所を残したまま中間距離～近距離が見えるように改良されております。レンズ直径6mmの中心3.6mmのみが遠近の回折領域で、周辺に向かい9段の階段構造が1.3 μ から端に向かい0.2 μ の高さへ徐々に低くなるデザインです。3.6mmより周辺は遠用単焦点レンズとなっており、夜間など瞳孔径が大きくなる低照度条件における遠方視力を重視します。また瞳孔径が小さくなる近方視時には遠近のエネルギーバランスが等しくなり、ほとんどの方が読書用眼鏡を必要としません。瞳孔径にさほど依存しませんので、一般的に瞳孔が小さい高齢者により適しています。

また、多焦点レンズは上記のようにレンズの特性上、複数の焦点が合うため単焦点レンズに比べると、暗所で光が散乱して光の周辺に輪が架かって見える現象(グレア・ハロー現象)を自覚しやすくなりますが、RsSTOR+3.0Dはこれらを軽減することが出来ます。



瞳孔径3mm、近距離

瞳孔径5mm、遠距離



アポダイズテクノロジー